

ネイチャー分野の目標設定の動向と ベストプラクティス (CDPフォレスト・ウォーター)

2025年7月9日

目次

1. なぜ目標設定が必要なのか？
2. 目標を開示する
3. CDPが目標設定に求めること
4. 目標設定に関する質問
5. CDPフォレスト
6. CDPウォーター
7. さいごに

サステナビリティサービス部 吉田広人

<講演者概要>

入社後、国交省など官公庁向けのコンサルティング業務に従事。

現在は、民間向けサステナビリティコンサルティング事業において、水資源に関する戦略策定、リスク調査を中心にチームをリードしている。

<資格>

技術士（応用理学、建設、総合技術監理）

AWS Professional Specialist

経営学修士(MBA)



ネイチャー分野の目標設定の動向と ベストプラクティス (CDPフォレスト・ウォーター)

1. なぜ目標設定が必要なのか？

気候変動に加えネイチャー分野(森林・水セキュリティ)
におけるアクションが不可欠

なぜ目標設定が必要なのか？

- 目標を設定することで、そのアクションが自然や社会の持続可能性に貢献しているかどうかを評価できる

2. 目標を開示する

企業は自社の**目標**やその**設定プロセス**、**アクション**を
比較可能な形で開示する必要がある

比較可能な開示を可能にする枠組み

- ネイチャー分野の情報開示フレームワークである**TNFD**でも**目標の設定が4つの柱のひとつ**として提言されている
- TNFDでは、ネイチャー分野の**目標設定フレームワーク**として**ネイチャーSBTsが推奨**されている

3. CDPが目標設定に求めること

科学に基づく期限付きで追跡可能な定量的目標

- 企業が直面する自然劣化の危機を、**分析・評価し、理解し優先順位**を付け、**計画**を策定し、**行動**を起こし、**振り返り、改善**することが可能となる
- CDPでは、情報開示フレームワークである**TNFD**に加え、**目標設定フレームワーク**である**ネイチャーSBTs**との**相互運用性の拡大**を進めている

4. 目標設定に関する質問

CDPフォレスト

■ 8.7

カテゴリー

森林減少なし（DF：Deforestation-Free）

森林減少および自然生態系転換なし

（DCF：Deforestation- and Conversion-Free）

CDPウォーター

■ 9.15

カテゴリー

水質汚染

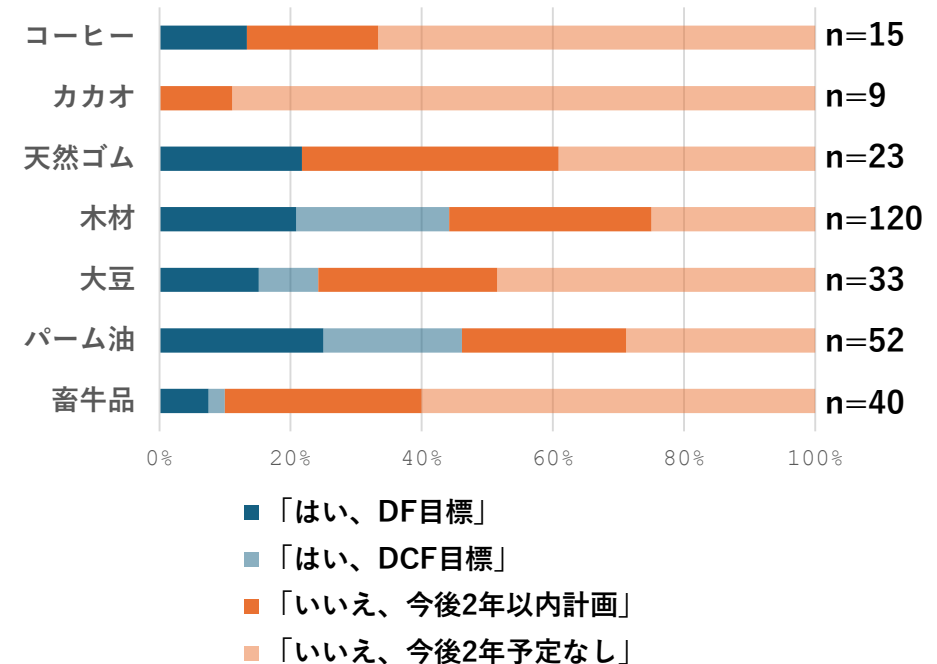
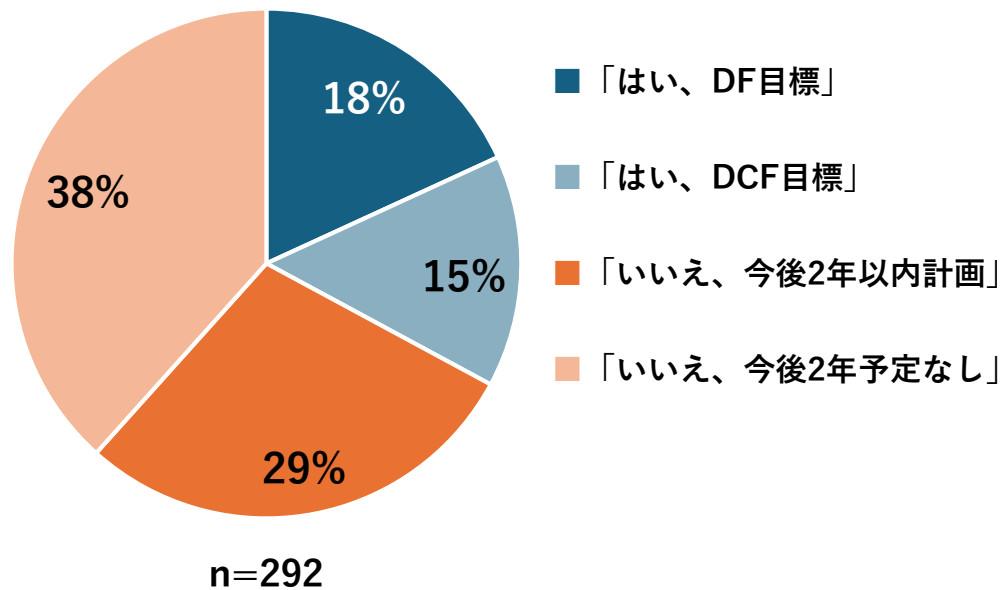
取水量

上下水道・衛生（WASH）サービス

その他

5-1. CDPフォレストにおける目標設定とカテゴリー

- 8.7 貴組織は、報告年において、森林減少なし目標や転換なし目標、または情報開示したコモディティの持続可能な生産/調達に関するその他の目標を設定していましたか？



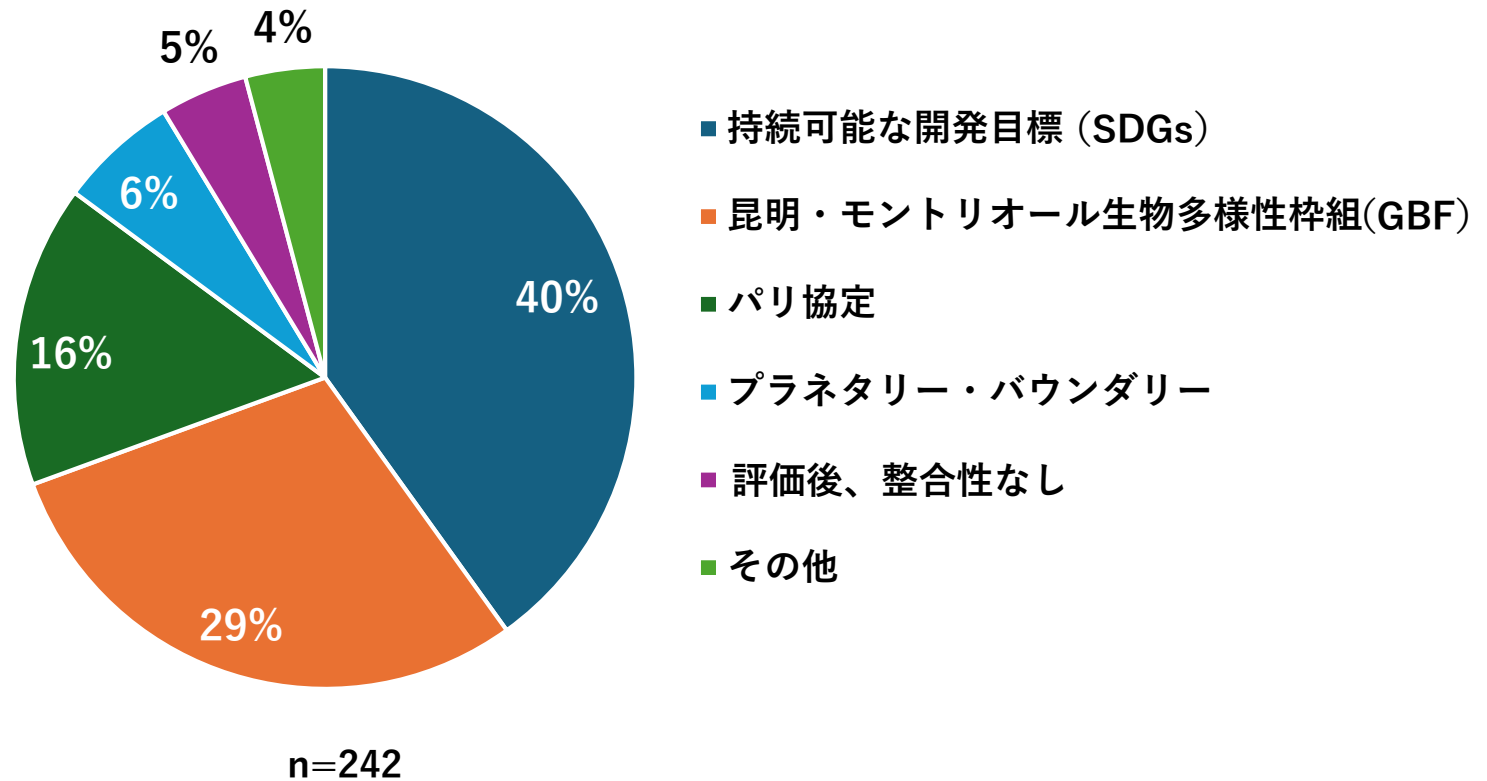
5-2. 目標設定における業種別の回答傾向

- 8.7 貴組織は、報告年において、森林減少なし目標や転換なし目標、または情報開示したコモディティの持続可能な生産/調達に関するその他の目標を設定していましたか？

業種	「いいえ、今後2年予定なし」	「いいえ、今後2年以内計画」	「はい、DCF目標」	「はい、DF目標」	全体
アパレル	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0% (n=3)
バイオ技術・ヘルスケア・製薬	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0% (n=10)
食品・飲料・農業関連	31.3%	31.3%	13.4%	23.9%	100.0% (n=67)
ホスピタリティ	64.7%	5.9%	0.0%	29.4%	100.0% (n=17)
インフラ関連	20.0%	35.0%	40.0%	5.0%	100.0% (n=20)
製造	29.6%	40.7%	7.4%	22.2%	100.0% (n=54)
素材	31.9%	31.9%	17.0%	19.1%	100.0% (n=47)
発電	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0% (n=1)
小売	57.9%	15.8%	15.8%	10.5%	100.0% (n=57)
サービス	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	100.0% (n=9)
輸送サービス	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0% (n=7)

5-3. 森林目標が準拠する枠組み

- 8.7.2 森林減少なし目標または転換なし目標に寄与するものを含む、貴組織のコモディティに関連するその他の目標の詳細と、それらの目標に対する進捗状況を記入してください。（16列目）



5-4. Aリスト企業のベストプラクティス

「目標」は企業が直面する**環境リスクと事業活動との関係**や**重要度**を把握し、**その認識に基づいて設定**されるものです。

CDP質問書への回答において、上記のプロセスにて目標設定について開示している企業を紹介します。

CDPフォレスト

統合モジュール：「依存・インパクト」「リスク・機会」や「優先地域」の特定



環境特化モジュール：リスクを管理するためトレーサビリティを向上

5-4. Aリスト企業のベストプラクティス

花王株式会社

- 自社事業に欠かせない主要原料である「木材」「パーム油」について回答
- 主要原料調達に関わるリスク管理と持続可能な調達に向けたトレーサビリティ向上とサプライヤー支援

CDPフォレスト2024回答内容

- ▼ 2.2.2：LEAPアプローチに沿った分析により重要度の高いリスクを抽出
 - ▼ 2.3：上記分析を踏まえて主要原料の調達地域（上流）を優先地域として特定
 - ▼ 3.1：主要原料調達に関わるレピュテーションリスクの財務インパクトを分析
- ▼
- ▼ 8.7：主要原料サプライヤーの認証取得、トレーサビリティ向上を目標に設定
 - ▼ 8.8：認証制度の活用に加えて、サプライヤーとのコミュニケーションや自社調査によりトレーサビリティを向上
 - ▼ 8.14：CDPサプライチェーンプログラム、Sedex、社内SAQなどによりサプライヤーの取組状況を確認

5-4. Aリスト企業のベストプラクティス

王子ホールディングス株式会社

- 自社事業の中核を担う「木材」について回答
- 使用する全ての木材原料のトレーサビリティ確保に取り組む

CDPフォレスト2024回答内容

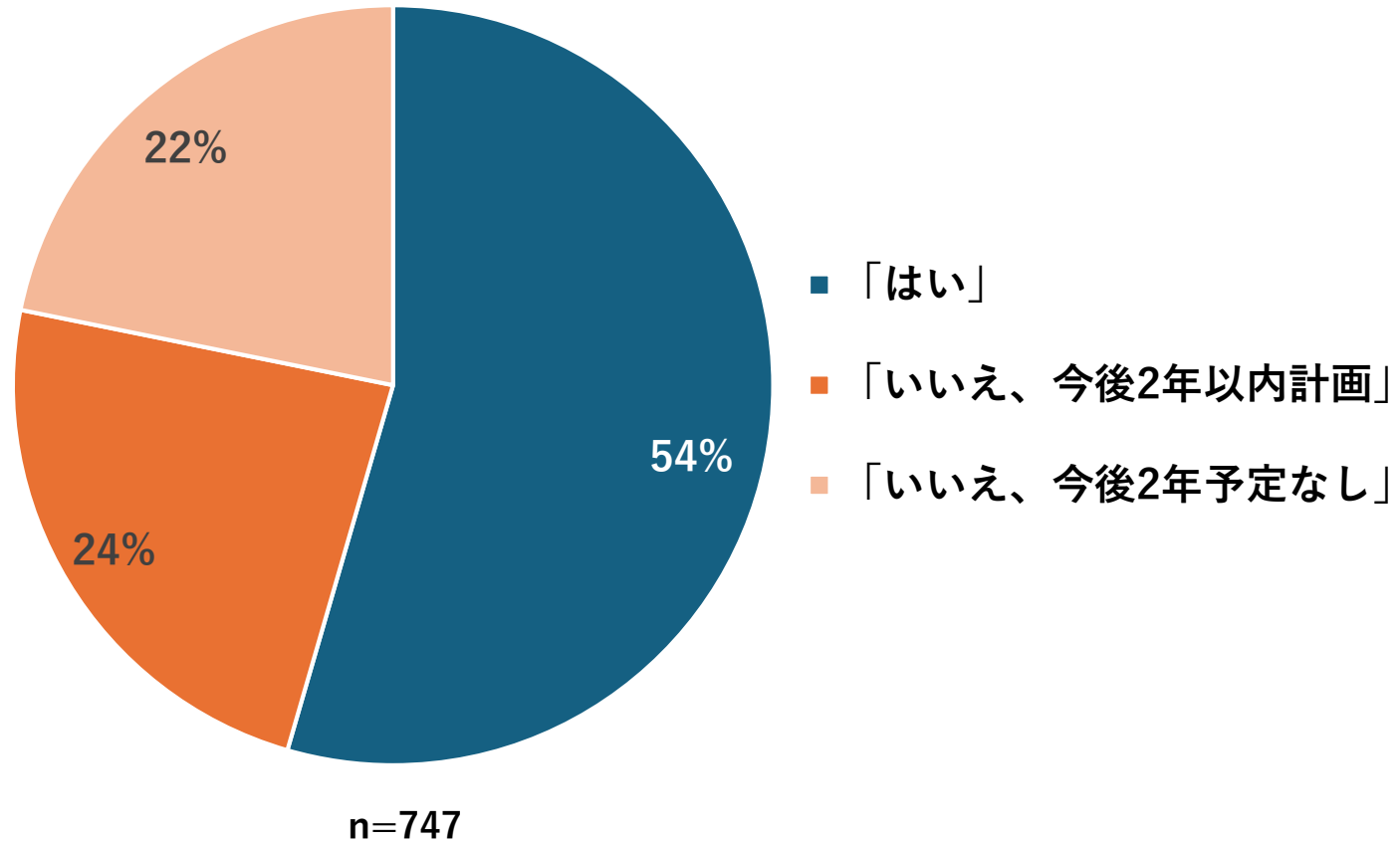
- 2.3：ENCOREにより森林への依存・インパクトの高さ、調達依存度の高い地域を特定
- 3.1：BCP、収益における木材調達リスクへの脆弱性を確認し、財務指標として算定



- 8.7：統合モジュールで確認したリスクを管理するため木材原料のトレーサビリティ向上を目標に設定
- 8.8：森林資源対策専門部署が調達ガイドライン策定、第三者認証、サプライヤーへの調査などにより、使用する木材原料全てのトレーサビリティ確保に取り組む
- 8.15：統合モジュールで特定した調達依存度の高い地域において、現地のステークホルダーとの協働で森林保全、水源涵養、生物多様性向上を目指すランドスケープアプローチに取り組む

6-1. CDPウォーターにおける目標設定

■ 9.15 貴組織には水関連の定量的目標がありますか？



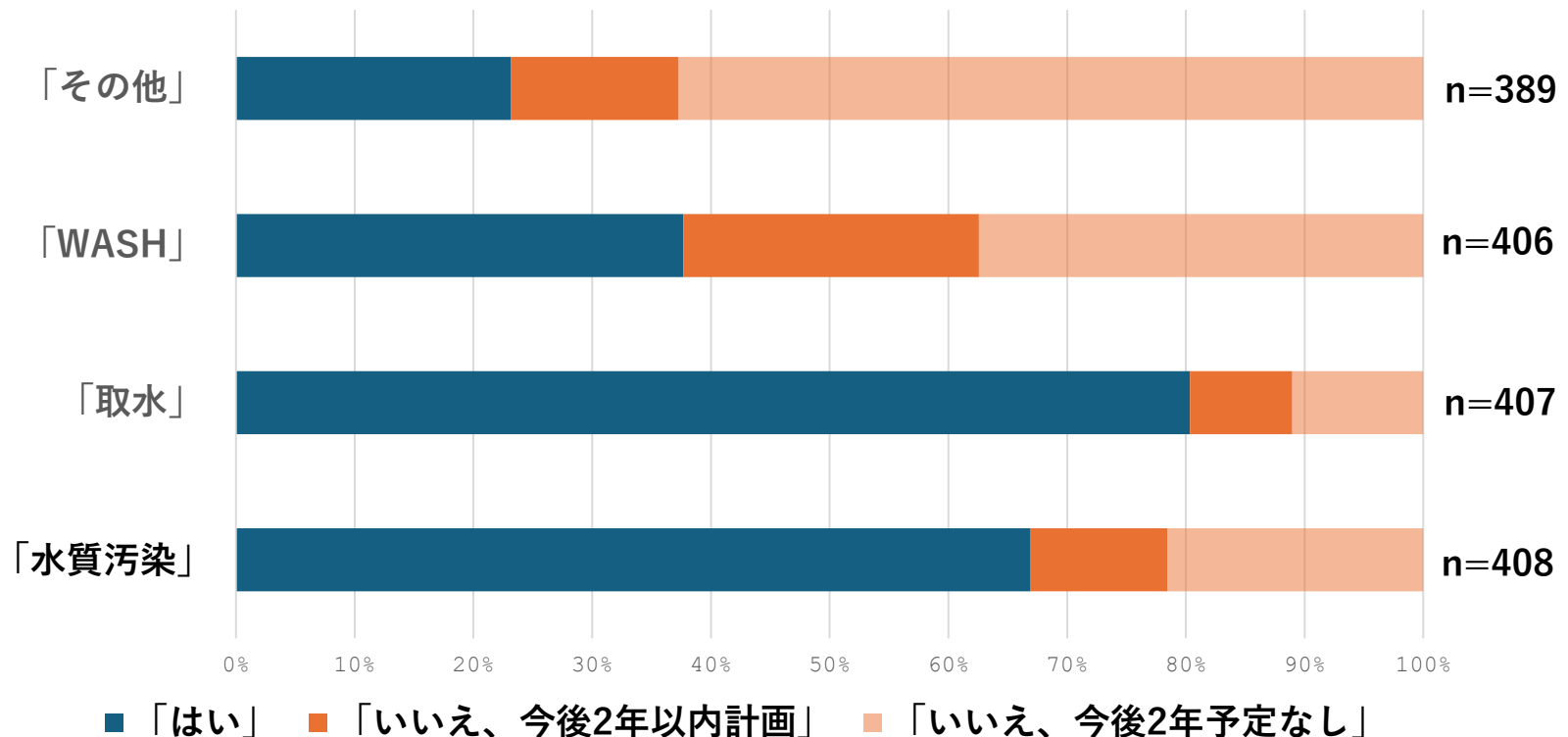
6-2. 業種別での目標設定状況

■ 9.15 貴組織には水関連の定量的目標がありますか？

業種	はい	「いいえ、今後2年以内計画」	「いいえ、今後2年予定なし」	全体
アパレル	28.6%	42.9%	28.6%	100.0% (n=7)
バイオ技術・ヘルスケア・製薬	59.0%	23.1%	17.9%	100.0% (n=39)
食品・飲料・農業関連	72.3%	19.1%	8.5%	100.0% (n=47)
化石燃料	25.0%	25.0%	50.0%	100.0% (n=8)
ホスピタリティ	13.3%	66.7%	20.0%	100.0% (n=15)
インフラ関連	52.3%	25.0%	22.7%	100.0% (n=44)
製造	59.7%	20.3%	20.0%	100.0% (n=315)
素材	65.2%	17.8%	17.0%	100.0% (n=135)
発電	62.5%	12.5%	25.0%	100.0% (n=8)
小売	21.2%	34.8%	43.9%	100.0% (n=66)
サービス	42.5%	32.5%	25.0%	100.0% (n=40)
輸送サービス	39.1%	34.8%	26.1%	100.0% (n=23)

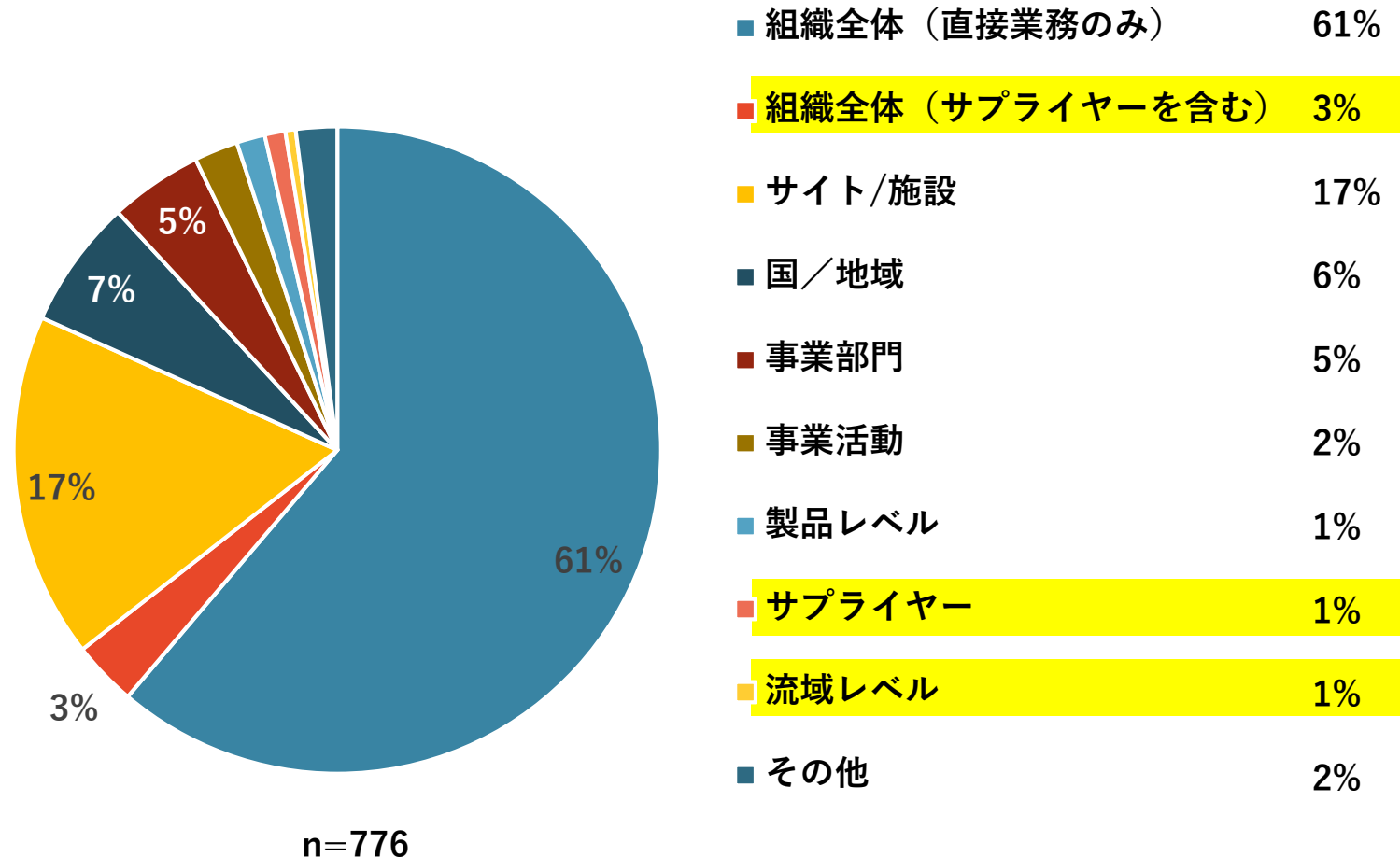
6-3. 水目標におけるカテゴリー

- 9.15.1 水質汚染、取水、WASH、その他の水関連カテゴリーと関連する定量的目標があるか否かを教えてください。



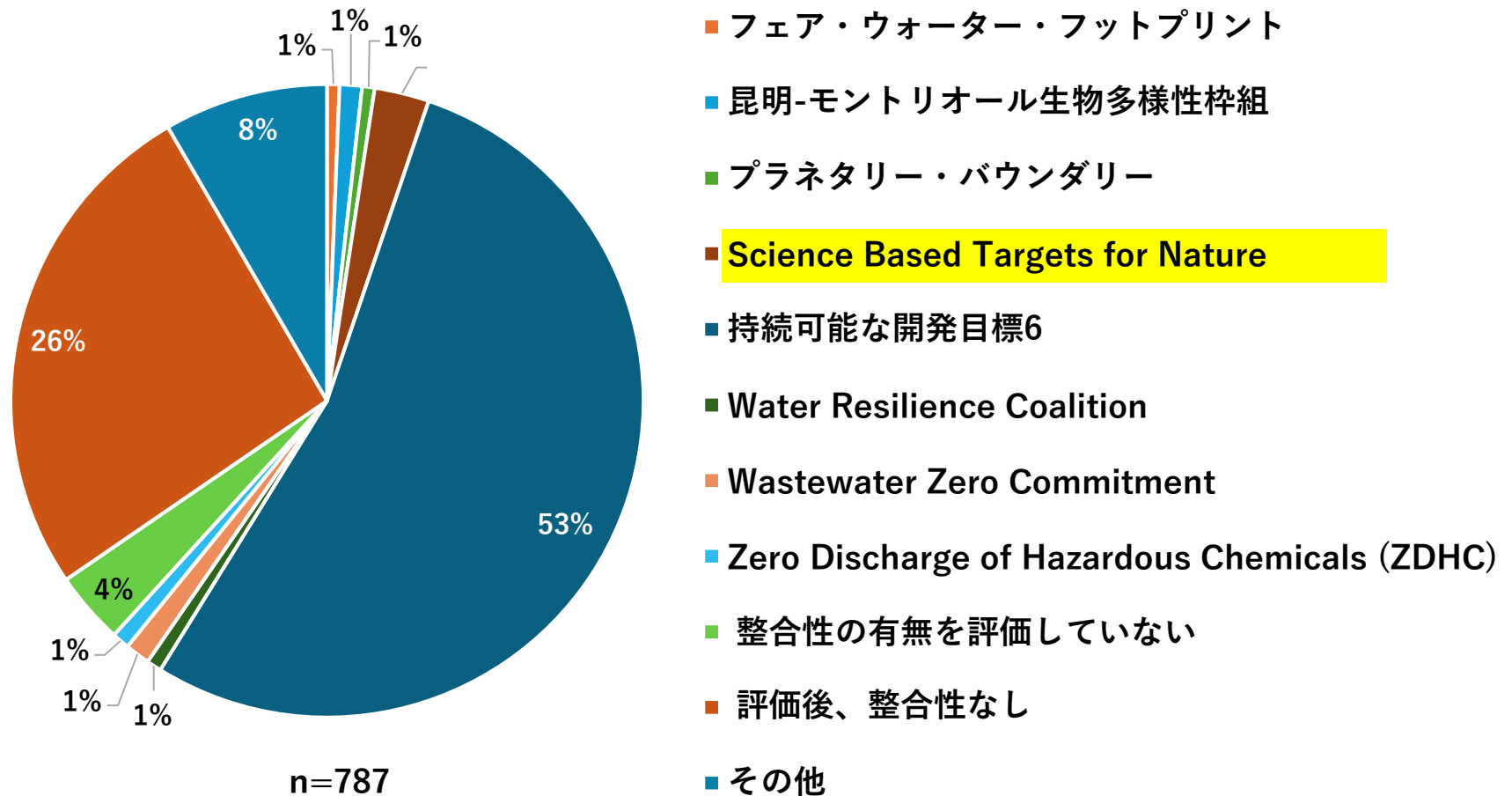
6-4. 目標設定の対象範囲

- 9.15.2 貴組織の水関連の定量的目標およびそれに対する進捗状況を具体的にお答えください。（2列目）



6-5. 水目標設定が準拠する枠組み

- 9.15.2 貴組織の水関連の定量的目標およびそれに対する進捗状況を具体的にお答えください。（12列目）



6-6. Aリスト企業のベストプラクティス

「目標」は企業が直面する**環境リスクと事業活動との関係**や**重要度**を把握し、**その認識に基づいて設定**されるものです。

CDP質問書への回答において、上記のプロセスにて目標設定について開示している企業を紹介します。

CDPウォーター

統合モジュール：「依存・インパクト」「リスク・機会」や「優先地域」の特定



環境特化モジュール：リスクの高い拠点・カテゴリーでの目標設定

6-6. Aリスト企業のベストプラクティス

大和ハウス工業株式会社

■ BCM（事業継続マネジメント）の観点から水リスクを評価し目標設定

CDPウォーター2024回答内容

- ▼ 2.3：「水利用制限」「水害リスク」「水質悪化」といった観点、「事業継続マネジメント」の観点からグローバルツールなどを活用し優先地域を特定
 - ▼ 3.1：自社工場およびサプライヤー工場の災害リスクや被害想定額を試算し対応策を策定
- ▼
- ▼ 9.2.4：「Aqueduct」により日本国内および海外自社操業拠点地域の水ストレスを把握
 - ▼ 9.3：直接操業拠点、サプライヤー工場での「水害リスク」をグローバルツール、ヒアリングなどで特定
 - ▼ 9.15.1：自社事業における水資源の重要性の観点から「水質汚染」「取水」「WASH」「その他（居住段階での水使用量削減）」で定量目標を設定
 - ▼ 「取水目標」については「ネイチャーSBTs」認定取得に向けて取り組んでいる

6-6. Aリスト企業のベストプラクティス

アサヒグループホールディングス株式会社

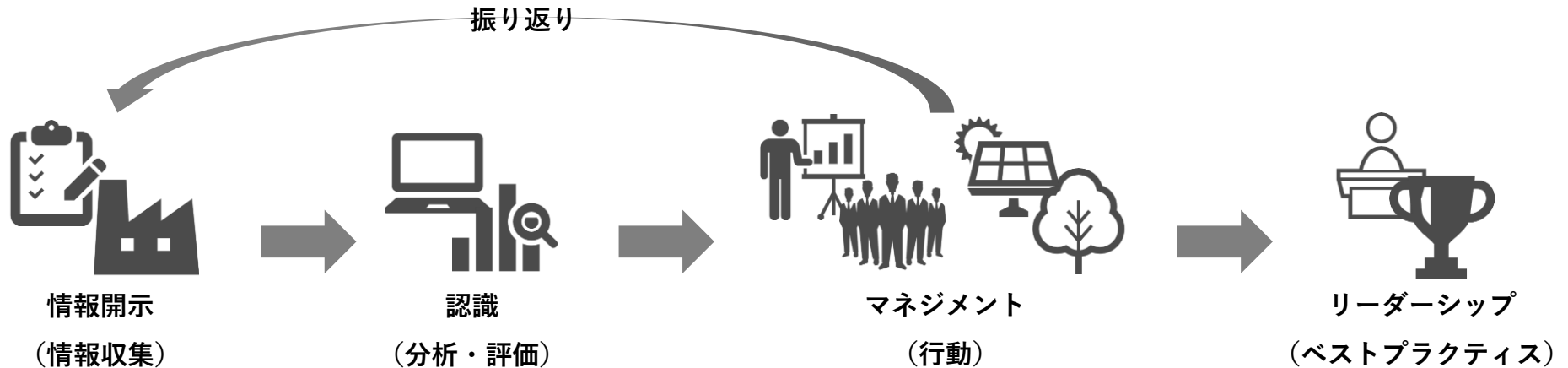
- バリューチェーン全体での事業・社会インパクト創出を目指すべく、各段階での活動を把握し流域単位での目標設定

CDPウォーター2024回答内容

- ▼ 2.2.2：ダブルマテリアリティの観点でTCFD・TNFDを統合した自社独自のアプローチを用いて「依存・インパクト」「リスク・機会」を特定・評価
 - ▼ 2.3：LEAPアプローチに沿って分析し、「水量」「水質」「生物多様性」「WASH」の観点で優先拠点を特定
 - ▼ 3.1：主力事業に不可欠な取水に関するリスクを「Aqueduct」により分析し、リスクの高い地域を特定
- 
- ▼ 9.3：「Aqueduct」により水リスクの高い自社操業拠点得点に加え、アンケートを通してサプライヤーの水リスクを把握
 - ▼ 9.15.1：直接操業拠点に加えて、流域単位で目標を設定

7. さいごに

測定していないものは管理できない



- Aリスト企業の回答を見ると、自社の情報を収集し、分析・評価した上で目標を設定し、行動しています。
- **CDP質問書への回答に沿う**ことで、「分析・評価」「理解・優先順位付け」「計画策定」「行動」「振り返り」「改善」といった「**科学に基づく期限付きで追跡可能な定量的目標**」の設定にも沿うことができます。

会社紹介

会社紹介

会社概要

業種	建設コンサルタント
本店所在地	東京都台東区浅草橋5-20-8 CSタワー
設立	1963年1月29日
資本金	4億5千万円
売上高	261億円（令和6年6月30日現在）
従業員数	1,314人（技術1,027人・事務287人）（令和6年7月1日現在）
事業拠点	日本国内44拠点・海外8拠点

事業内容



国土保全

ダム、河川
港湾/海岸/海洋道路
交通
橋梁、鉄道



まちづくり・ マネジメント

都市開発
スマートシティ
PPP/PFI
コミュニティ



環境 ソリューション

気候変動
水リスク
生物多様性
資源循環
土壌/地質



ビジネス ソリューション

維持管理
事業マネジメント
海外支援

建設コンサルタントについて

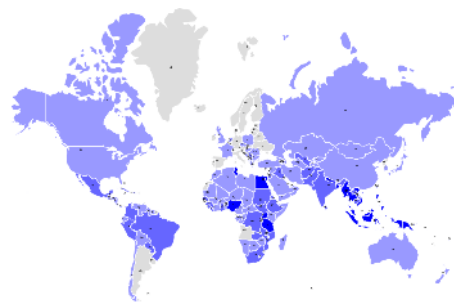
官公庁やJICAに加え民間企業も弊社のお客様です。

事業の幅は広く、ダムや河川、橋梁などにかかる計画・設計・解析といった社会資本整備に関する事業のほか、サステナビリティコンサルティングやアドバイザー業務も実施しております。



※社会インフラの整備において、施工（工事）を除くすべてのフェーズに対応

海外での業務実績（例）



- 業務実績がある国・地域
- 業務実績が豊富である国
- ネットワークが特に充実している国



治水事業（インドネシア）

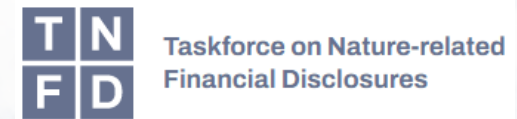


浄水場設備（エジプト）

会社紹介

サステナビリティに関するコンサルティング

・企業の環境課題に対し、自然科学の技術力を活かしたファクトに基づく評価や情報開示支援、アクション策定などのコンサルティングサービスを提供しています。



・環境価値取引・森林の多面的機能評価に関するご支援をしています。

- ・ブルーカーボン : 海洋生物により吸着・固定されるブルーカーボンを活用したカーボンオフセット制度の発行支援
- ・森林の多面的機能評価 : 水源涵養量評価、生物多様性評価、CO2吸収・固定量評価
- ・グリーン電力証書 : 再生可能エネルギーの環境付加価値の証書化



会社紹介

支援実績例



事例紹介・インサイト



サステナビリティNavi

<https://sustainability-navi.com/>

●事例紹介



Project File21
食品や医療を支える豊かな自然と共に守る、大切な環境保全パートナー
明治ホールディングス株式会社/KMバイオロジクス株式会社

概略調査 詳細調査 目標設定・ビジョン 対策
発信



Project File20
100年企業による「1.5℃目標」達成への貢献とSBT認定
フジパングループ本社株式会社

概略調査 詳細調査 目標設定・ビジョン 対策

●インサイト (CDP関連も)

初めてCDP質問書を回答する方必見！
CDPの概要とCDP質問書の内容について
<https://sustainability-navi.com/insight/029/>



YACHIYO
Engineering